

会報 エコネットはんのう

編集・発行／はんのう市民環境会議

平成22年度定期総会を開催

6月6日（日）に市民会館小ホールを会場に、平成22年度定期総会が、沢辺飯能市長、佐野市議会議長を来賓に迎え、開催されました。

総会では、平成21年度の事業報告、収支決算の承認に続き、役員の改選として17名の方が再任され、3名の方が新任されました。

また、事業計画案、収支予算案を審議し、全ての議案について原案どおり承認されました。

定期総会終了後には、スライド上映を行い、天覧山谷津の里づくりプロジェクト及び各部会の活動を紹介しました。

会場の外では、廃てんぷら油の回収を行い、12リットル集まりました。



○役員の改選により次のとおり役員が決まりました

・運営委員	18名（敬称略）	
会長	木川 一男（市民）	
副会長	伊藤 知夫（市民）	
//	西久保信夫（飯能市自治会連合会）	
委 員	高沖 義則（市民）	田中 聰憲（市民）
	南林さえ子（駿河台大学）	中川 淳（飯能商工会議所）
	小久保雅章（飯能青年会議所）	山崎 英夫（飯能市商店街連盟）
	小池 昇（西川広域森林組合）	町田 儀明（飯能市農業青年会議所）
	浅野 正敏（NPO 法人天覧山・多峯主山の自然を守る会）	
	鴨田 節男（飯能市合併処理浄化槽組合）	
	齋藤 実（有）飯能清掃センター	小池 重彦（新電元工業株）
	大塚 雅寛（株）丸広百貨店飯能店	市川 光一（株）椿本チエイン
	中村 和久（株）二ットー冷熱製作所	
・監 査	2名	
	早瀬あかね（市民）	間邊 元幸（市民）

○事業計画・予算のあらましをお知らせします

（1）事業計画

本会は発足以来、7年目となります。これまで、飯能市における環境に関する現状の把握から始め、行動を起こし、活動の環を広げてきました。引き続き各分野での事業を積極的に展開していきます。それぞれの事業において、楽しく参加できるよう創意工夫を図りながら進めていくため、本年度のテーマを「みんなで活動を楽しもう」とします。

今まで培ってきた他団体等との連携を更に深め、情報交換や交流を活発に進めます。特に、天覧山谷津の里づくりは、天覧山から多峯主山一帯の保全構想をまとめた上でその位置づけを明らかにし、魅力あるモデル的事業として、多方面の事業者、団体へのPRを積極的に進めます。

(2) 収支予算

今年度の収支予算を1,090千円とし、天覧山谷津の里づくりプロジェクト事業や部会活動、会報の発行、イベント等を行います。

(3) 天覧山谷津の里づくりプロジェクト

飯能市森林文化都市宣言推進事業計画に基づき、市民、事業者、行政の協働による取り組みとして「谷津田の再生・活用」の事業を進めます。

- ①プロジェクト会議の開催
- ②毎月1回定例作業
- ③里山復活祭の開催（1回）
- ④3部会合同会議との連携
- ⑤その他谷津田再生・活用と自然環境保全に関する事業

定例作業は、原則、第4日曜日の午前9時30分から約2時間行っています（雨天中止）。どなたでも参加できます。ぜひご参加ください。

(4) 各部会の活動計画

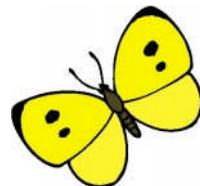
各部会の平成22年度における活動内容を紹介します。

会員の皆さんは、どの部会の活動にも参加できます。皆さんのご参加をお待ちしています。

《自然環境部会》

自然環境部会では、次の事業に取り組みます。

- ①毎月1回の定例会議（3部会合同会議）の開催
(原則、第4木曜日の午後7時～9時に開催します)
- ②天覧山谷津の里づくりプロジェクトへの協力と提案
- ③天覧山・多峯主山一帯の保全計画提案
- ④飯能市の自然環境マップづくり
- ⑤自然観察会の開催
- ⑥自然環境講座、シンポジウム等の開催ほか



《地球環境部会》

飯能の身近な山から採取した種子（主に落葉樹）を苗木として育て、市民の協力で地球に植林する「緑のダム運動」につなげられる活動を継続します。生活祭にてポット苗の配布をします。また、苗木を育てるための栽培地を確保し、移植を本格的に行います。

なお、この活動は、子ども家庭課の「森のようちえん森づくりの会」と協働事業で、美杉台公園東側緑地「森のようちえん」にて毎月定期的に活動しています。

今年度から、昆虫の森（阿須）への植樹と、森のようちえんの間伐材によるきのこ作りをします。

《生活環境部会》

生活環境部会では、小さなことから一人ひとりが日々の生活を見直し、環境に配慮した行動を進め、それが大きな輪となっていくことで環境に与える負荷が低減できるよう、次の事業に取り組みます。

- ①地球温暖化防止活動の実施
 - ・地球温暖化防止のPR活動
 - ・緑のカーテン事業
 - ・地球温暖化防止活動推進員及び他団体との協働による活動の実施
- ②飯能市街の美化の施策
 - ・まちなか清掃活動
- ③飯能市民の環境に対するモラルの高揚を図る
 - ・不法投棄の問題
 - ・ポイ捨ての問題
- ④将来を担う青少年への環境問題の啓発

3月～6月の活動報告

《自然環境部会》

- 4月11日（日） 自然観察会「春の里山、山桜」の巻 25名参加
天覧山から多峯主山一帯のお花見（山桜など）を楽しみながら散策しました。
- 5月9日（日） 自然観察会「新緑の里山を歩こう」の巻 27名参加
新緑に包まれた天覧山から多峯主山を散策。この時期に訪れる野鳥（キビタキやホトトギス）の声を聞き、植物では貴重なキンランやギンランなどの植物も確認できました。
- 6月27日（日） 自然観察会「ほたるのタベ」の巻 41名参加
天覧山谷津（ほたるの里）にて、60匹以上のホタル（ゲンジボタルとハイケボタル）を見ることが出来ました。
※いずれも「NPO 法人天覧山・多峯主山の自然を守る会」との共催

《地球環境部会》

- 森のようちえん森づくり事業
3月24日（水） 園内を整備しました。
4月24日（土） 春の野草教室 野草の観察・採集と竹の子掘り作業をして、参加者で調理して食べるイベントを開催しました。
6月2日（水） ポット苗作りをしました。
※4月17日、28日、5月26日、6月23日は雨天のため中止

《生活環境部会》

- 緑のカーテン事業
昨年育てたゴーヤから採取した種を、4月13日に蒔きました。5月中旬には発芽し、約180苗を会員の方や事業所、公共施設に配布しました。6月には、市役所本庁舎・別館の連絡通路南側にゴーヤの苗を植栽し、ネットを張りました。
今年は、次の事業所も緑のカーテン事業を実施します。

（敬称略、順不同）

・(株)ニットー冷熱製作所

・サイタ工業(株)



《3部会合同会議》

- 3月27日（土）、4月24日（土）、5月26日（水）、6月24日（木）
谷津田再生プロジェクト（田植えの準備、イノシシ対策等）、飯能河原水辺再生事業について（県への説明会の申入れ、現地視察会の計画）、H22年度自然環境部会事業計画などについて、話し合いました。

《全体事業》

- 天覧山谷津の里づくりプロジェクト
3月28日（日） 畦道づくり、低灌木の伐採
4月25日（日） 田ならし、植樹など
5月30日（日） 田植え、草刈り
6月27日（日） 草刈り、田の掘り起こし
参加者数…3月：18名、4月：22名
5月：28名、6月：24名



○飯能新緑ツーデーマーチ 5月22日（土）、23日（日）の2日間

はんのう市民環境会議がクリーンウォークのブースを担当し、中学生ボランティアと一緒にウォーカーへごみ袋などの配布を行いました。

○環境映画会「クヌート」上映 6月6日（日）

6月の環境月間事業として、映画「クヌート」を上映しました。地球温暖化による生態系への影響が危惧されていることから、今年はホッキョクグマたちの命のメッセージを伝えるドキュメンタリー映画を取り上げました。約150名の方が鑑賞しました。

○まちなか清掃活動 6月20日（日）

6月の環境月間事業として、飯能駅と東飯能駅周辺でポイ捨てごみを収集しました。90名の方が参加し、30kgのごみが集まりました。事業所として、(株)ニットー冷熱製作所、(有)飯能清掃センター、(株)椿本チエインから参加していただきました。



○事業所による清掃活動

事業所周辺の清掃活動を次の事業所等が実施しました。

（敬称略、順不同）

- | | |
|--------------------|-------------------|
| ・荏原エンジニアリングサービス(株) | ・JFEミネラル(株)武藏野鉱業所 |
| ・(株)ニットー冷熱製作所 | ・新電元工業(株) |
| ・(財)すぎの子文化振興財団 | ・飯能市手をつなぐ育成会 |
| ・東京電力(株)飯能営業センター | |

○不法投棄防止活動

6月中、次の事業所のご協力により「不法投棄は許しません」のボディパネルを車両に貼付して、啓発を行いました。

（敬称略、順不同）

- | | |
|---------------|---------------|
| ・国際興業(株)飯能営業所 | ・西武バス(株)飯能営業所 |
| ・(有)飯能清掃センター | ・(株)椿本チエイン |
| ・飯能市役所 | |



編集後記：

天覧山谷津の里づくりプロジェクトは、スタートして丸3年が経過しました。

活動報告でご覧のとおり、今年も5月に田植えを行い、先日「田の草取り」と周辺の草刈りを行いました。水田には多くの水生動物が戻って来ており、ちょうどトンボが羽化している状況を観察することができました。

帰り際に、新宿から来たという補虫網（タモ網）を持った二人の若者と出会いましたが、彼らはインターネットで、この地域の情報を知ったようです。

“昆虫の里”として当地域が認められ、子供達の叫び声が聞こえる姿を想像する一方で、無秩序な捕獲・採取の対策を痛感した次第でした。

（広報委員長：伊藤知夫）